

名教自然と名教就美のかかわり

時折、同窓の集まりで さて名教自然とはと 自問する向きもあるやと推測する。横浜国大に学んだ同窓の皆様も名教自然という言葉や、名教自然碑の存在を知ってはいても、その碑文の意味を理解している方は少ないだろう。筆者自身も同様に理解できずにいたからでもある。

さて生産工学科同窓会は平成 27 年度に同窓会名称に名教を冠した名教就美会に改称した。名教就美会の第2回総会にて「名教自然と名教就美について」の記念講演を横浜国大 山口 惇名誉教授にお願いした。改称の理由と名教自然の解説だが、その概要の把握には下記の 1 項が理解しやすい。

さらに関連して、2.煙洲先生による教育私見の断片 3.名教自然碑の碑文と解説を掲載した。これらにより名教自然と名教就美についての理解が深まることを切に期待している。



1. 名教就美会

機械・材料系学科では伝統的に同窓会名称を学科名としており、平成元年からは生産工学科同窓会であった。その後、平成 23 年に工学部から理工学部となり、機械工学・材料系学科に改組されて同窓会名称も変更が課題となったが、今後は学科名に依らない名称がふさわしいとして 2 年の検討を経て平成 27 年 3 月に名教就美会と定めた。(詳細は 会誌 名教就美 Vol.1 2014 参照)

ここでは、下記に示すように、名教就美と命名した由来と就美の意味を命名者である山口 惇が解説し、さらにその前提である名教自然についても要約してある。

1.1 名教自然のこと

横浜高等工業学校 初代校長であった煙洲 鈴木達治先生は自らの教育方針を「名教自然」と名付けた。これは学生の自覚を促し、その天賦の才能を自由に発揮させるため、無試験、無採点、無賞罰で象徴される教育思想であった。

【名教自然の教育方針】

- ・学問は強制されずに、
- ・自らの意思で自発的に、
- ・自由に学ぶべきであり、
- ・自学自発の教育主義により、
優れた人材を育成することを目指すものであった。

1.2 名教就美会の命名の由来

【命名の背景、狙い】

本同窓会の名称として、学科名・専攻名ではなく、会員が技術者・研究者等として果す、社会活動・貢献に対する期待を示したいと考えた。

【用語の意】

- ・煙洲 鈴木達治先生の『名教自然』の「名教」を冠して、本学部の伝統(自主啓発の精神)を継承している。
- ・「美」とは、完全な調和、充実を意味し、「就美」とは美を成就することである。
- ・機械や材料分野などの技術者・研究者には、ものづくりの結果である製品が「美しい」、研究成果が「美しい」となるのが、高度の社会的評価であり、社会貢献である。

2. 名教自然碑の由来と教育私見の断片(鈴木 達治) 全 24 頁 (File名: 煙洲名教)

煙洲先生が退官されて戦後の昭和 32 年に回顧されながら自己の教育者としての足跡を詳細に記述されており、横浜高工での教育の実態や当時の社会の状況なども把握できる興味深い内容である。これは昭和 40 年に煙洲会から再発行された A6 版相当の冊子であるがすでに絶版となっており、多くの方が読むことが出来ない。(原本は名教就美会 事務局に保管)

このため発行元の煙洲会に許可を頂き、復刻版(PDF 版)を作成した。また漢籍に堪能な煙洲先生の記事には難解な漢語も含まれていたため、文字の後に()し 読みと意味 を付記した。

横浜国大の理工系で教鞭を取る教員の方々や若い学生諸君にも是非ご一読をお薦めする。.

3. 名教自然碑の裏面に刻した碑文(徳富 蘇峰)と解説 全 4 頁 (File名: 名教自然碑)

弘明寺校舎の前に設置されていた名教自然碑は、常盤台キャンパスの理工系図書館前に移設されている。この碑の裏面には煙洲 鈴木達治 初代の横浜高工校長の徳を称えて昭和 12 年に徳富 蘇峰翁が碑文を作成したものである。なお、この碑文は前節の 2.名教自然碑の由来と教育私見の断片にも掲載(1-2 頁)されているものだが、その冒頭で煙洲先生が碑の製作時の挿話とともに碑文を紹介しており、再掲した。この碑文を理解するには現代では、難解な点多いため読下した解説文と碑文中の語と語彙の説明を付し、さらに関連する事項にも簡単に触れてある。

平成 28 年 7 月吉日

山口 惇 S34 機械

平野謙一 S42 機械Ⅱ

煙洲 鈴木達治先生の生涯

明治 4 年(1871 年) 4 月愛媛県にて生れる

大正 9 年(1920 年)横浜高工開校 初代校長に就任し、昭和 10 年(1935 年)65 歳にて退官

昭和 36 年(1961 年)8 月没 (享年 89 歳)